

吹田操車場遺跡の発掘調査を実施しました。!



みつかった奈良・平安時代の建物跡群（公益財団法人 大阪府文化財センター提供）

平成 27(2015) 年 8 月から平成 28(2016) 年 3 月に公益財団法人 大阪府文化財センターと共同で吹田操車場遺跡の調査を実施しました。今回の調査では奈良・平安時代の掘立柱建物跡などがみつけられました。特に、平安時代の四面廂^{ほったてぼし}建物跡は岸部地域の歴史を考える上で注目される成果となりました。また、現地説明会が平成 27(2015) 年 12 月 5 日に開催されました。

なお、本号では文化財特集号として、本市の文化財保護の取り組み、佐井寺地域の文化財、高城遺跡の発掘調査などについてご紹介します。

文化財保護の取り組み

埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在約 150 か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が確認されています。埋蔵文化財包蔵地やその周辺地で土木工事が行われる際に遺跡に影響を与える恐れがあると判断される場合、発掘調査・試掘調査を行い、遺跡に影響を与えないと予測される場合は掘削工事工程の中で工事立会を行っています。

平成 27(2015) 年度は 25 件の発掘調査、10 件の試掘調査、122 件の工事立会を行いました。その他、（公財）大阪府文化財センターとの共同調査で吹田操車場遺跡（第 4 街区）、中ノ坪遺跡（岸部南 3 丁目）の発掘調査を実施しました。

文化財保護の保存・管理・公開・活用 文化財調査

市内に残る文化財の保護を目的として学術的な調査や緊急の調査を行っています。平成 27 年度は内本町 3 丁目の弘誓寺太鼓楼、千里山西 5 丁目の古民家、上山手町の古民家、南高浜町のこじょうういなり小女郎稻荷等の調査を実施しました。

文化財保存事業補助金の交付

平成 27 年度は市指定有形民俗文化財 2 件、市指定無形民俗文化財 1 件、市登録無形民俗文化財 4 件の保存事業に補助金を交付しました。

文化財の普及・啓発

平成 28(2016) 年 1 月 31 日、市立博物館講座室にて（公財）大阪府文化財センターとの共催（摂津市教育委員会協力）で吹田操車場遺跡・明和池遺跡発掘調査報告会を開催しました。大阪府文化財センターの亀井 聡氏が「平成 26 年度吹田操車場遺跡発掘調査成果」、摂津市教育委員会の八田邦敏氏が「これまでの明和池遺跡発掘調査成果」、大阪府文化財センターの鹿野 墨氏が「吹田操車場遺跡・明和池遺跡における発掘調査成果総括」をそれぞれ報告されました。また、同年 1 月 30 日～2 月 14 日に出土遺物とパネルの展示を同博物館で開催しました。

旧西尾家住宅・旧中西家住宅の保存・活用 旧西尾家住宅

旧西尾家住宅は建物等が国の重要文化財に指定され、庭園が国の登録記念物となっています。平成 17(2005) 年 10 月に旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）として開館し、一般公開とともに様々なイベントを行っています。

平成 28 年度は 5 月 14 日に行った講座で松川純也氏に旧西尾家住宅に関わる植物というテーマで旧西尾家住宅ゆかりの植物の特徴や楽しみ方についてわかりやすくお話しいただきました。また、9 月 19 日に観月会、11 月 20 日には貴志康一メモリアルコンサートを行いました。なお、平成 28 年度から 2 か年計画で耐震診断調査を行う予定で、今後、耐震対策や保存修理等について大阪府及び文化庁と協議を進めます。

旧中西家住宅

旧中西家住宅は建物等が国の登録有形文化財及び市指定有形文化財となっており、庭園が国の登録記念物となっています。平成 20(2008) 年 2 月より旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）として一般公開を行っており、春・秋に特別公開を行っています。また、平成 27 年 11 月より庭園の公開日を拡大する取り組みを試行的に行っています。（西本安秀）



吹田操車場遺跡・明和池遺跡発掘調査報告会

佐井寺地域の文化財

佐井寺地域は千里丘陵の中で標高 50 ～ 80 m の起伏のある地形で、奈良時代に僧行基ぎょうきが開創したと伝えられる山田寺（佐井寺）、佐井の清水など行基伝承が残る地域です。また、草葺屋根の残る古民家や狭く入り組んだ道が残るなど古いたたずまいを残している箇所もあり、古墳時代の須恵器窯跡、江戸時代中期の学者並河誠所関連の佐井寺伊射奈岐神社と社号標石、菅氏墓、近世の佐井寺くりぬき水路、幕末～明治初めに焼かれた佐井寺焼窯跡など多彩な文化財が残ります。

1 佐井寺境内

佐井寺

真言宗の寺院で奈良時代の僧行基創立の伝承が残ります。江戸時代には佐井寺観音として信仰を集めました。木造地蔵菩薩立像（平安時代・9 世紀大阪府指定有形文化財）、天文 2（1533）年に堂舎再建の由来を記した月輪板などが残されています。

a 護摩堂

護摩をたき修法を行うための仏堂で吹田市内で残る唯一のものです。屋根宝形造、方二間（柱の間が 2 つある）の正面に庇を付けた小堂で 17 世紀後期の建築です。

b 鐘楼

屋根切妻造の鐘楼で江戸前期の建築と考えられます。鐘は当地を治めた京都所司代板倉重宗が慶安 2（1649）年に寄進したもので、僧樂順が寺を中興したいきさつなどを記しています。

c 佐井寺焼窯跡

江戸時代末期～明治初めに佐井寺境内の窯で地元の医師赤井泰三によって焼かれたと伝えられる陶器の窯跡です。地元に残るろくろと製品、採集資料などから茶碗、土瓶、鍋等の日常陶器を製作していたと考えられます。

2 佐井寺伊射奈岐神社境内

佐井寺伊射奈岐神社

佐井寺地域の氏神で伊射奈岐神を主神としています。吹田市内に所在する式内社（平安時代に編さんされた延喜式記載の神社）3 社のうちの一つです。

d 佐井寺伊射奈岐神社本殿

三間社流造で屋根はこけら葺です。身舎（本殿の中心的部分）は内陣・外陣の前後二室に分かれています。身舎の柱に台輪（柱の頂部をつなぐ板材）がある市内唯一の例です。建築の様式から 18 世紀前期のものと考えられます。

e 吹田須恵器窯跡 NO.56

須恵器窯跡は灰色の硬い素焼きの土器である須恵器を焼成した登窯です。古墳時代後期（6 世紀）頃の窯跡と考えられ、現社殿の側に残されています。

（6 ページに続く。）



1-a 佐井寺護摩堂



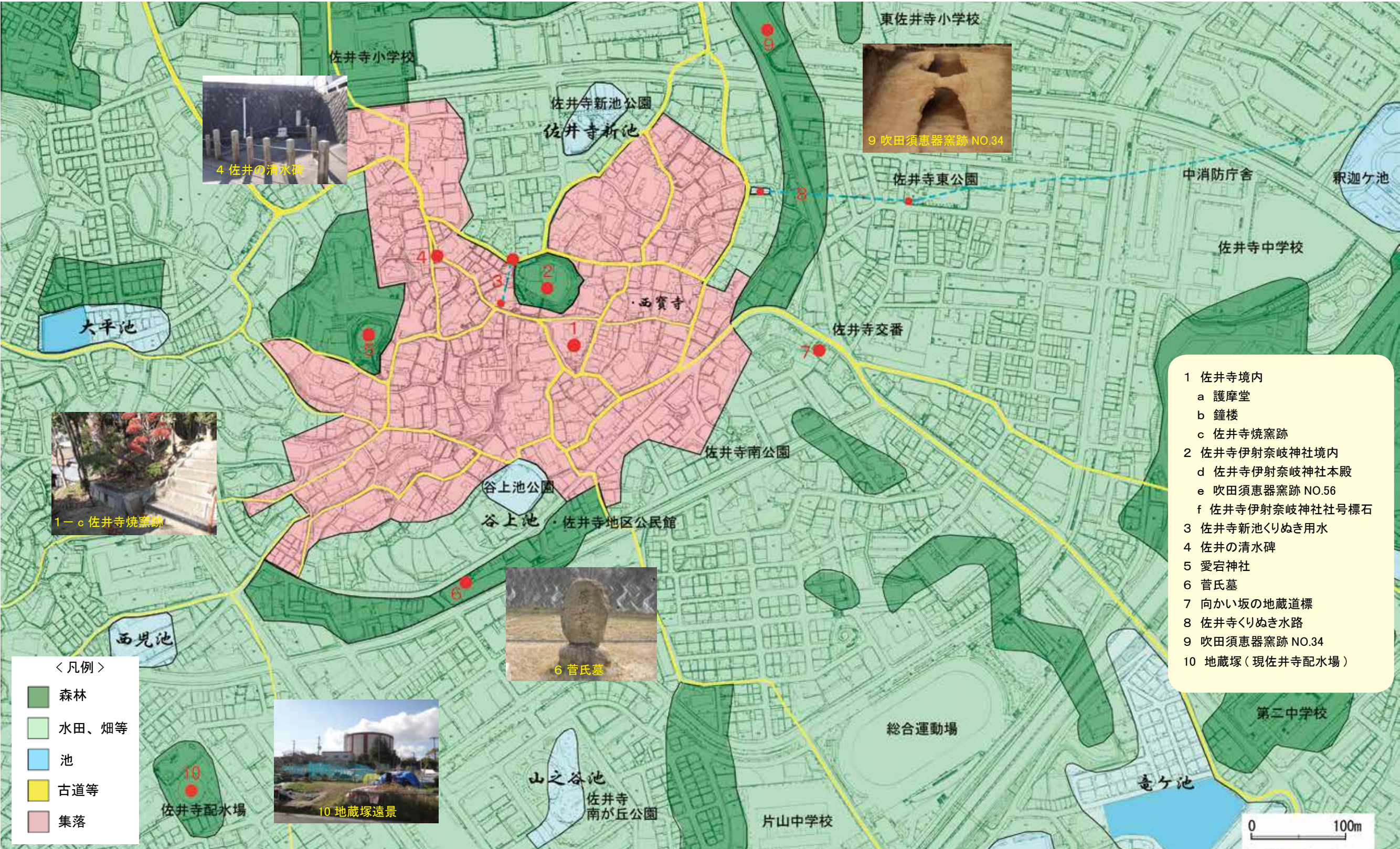
1-b 佐井寺鐘楼



2 佐井寺伊射奈岐神社境内

佐井寺地域の文化財

佐井寺地域は古墳時代の須恵器窯跡、行基伝承の残る佐井寺、式内社の佐井寺伊射奈岐神社と社号標石、近世の佐井寺くりぬき水路など多彩な文化財が残るところです。こうした文化財を探訪してみませんか。



(当図は現代の地形図に明治末の水田、集落等の情報を重ねて作成したものです。)

(西本安秀作成)

(3 ページより続く)

f 佐井寺伊射奈岐神社社号標石 (吹田市指定有形文化財)

江戸時代中期の学者並河誠所が、式内社の所在地や名称を正そうとして社号標石 (神社名を記した碑) を摂津国の二十社に建立したものの一つです。正面に大きく「伊射奈岐社一座」、向かって右側面に「佐井寺村」、台石に「菅廣房」と刻まれています。

3 佐井寺新池くりぬき用水

佐井寺 2 丁目 16 付近から北方の佐井寺新池に至る水路のうち、佐井寺伊射奈岐神社西側付近の約 60 m がくりぬき部分と考えられます。現在は住宅・道路下に埋設しており、築造時期、構造等の詳細は不明です。

4 佐井の清水碑

行基の祈願により湧き出たという伝承があり、佐井寺境内にも引き込まれ、眼病に効く霊水として信仰を集めたと言われています。

5 愛宕神社

集落の西側の高台にある神社で京都の火伏の神として知られる愛宕大権現を祀っています。ここは行基山^{ひふせ}といい、行基が本尊である十一面観音像を掘り出した所との伝承が残ります。地蔵盆と同時期の 8 月 24 日頃にお祭りを行っています。

6 菅氏墓

佐井寺伊射奈岐神社社号標石に刻まれた「菅廣房」の墓と伝えられています。菅廣房は標石建立の際に尽力した人物と考えられ、佐井寺地域で亡くなったと伝えられています。

7 向かい坂の地蔵道標

天道から佐井寺へ向かう道と岸部から佐井寺へ向かう道が合流する位置に建てられた道標です。享和 3 (1803) 年・文化 7 (1810) 年の年号と二法名が彫られていて、地蔵像を中央に「右 吹田」「左 きしべ」と刻んでいます。

8 佐井寺くりぬき水路

江戸時代に佐井寺村の雨水を釈迦ヶ池引き込むため、途中の丘陵部をくり抜いて造られた水路で、明和 9 (1772) 年の古文書に記されています。入口前面には土砂の流入を防ぐために沈砂池を設け、入口は約 60 cm 幅の石組みとし、内部は素掘りで、トンネル部分は約 126 m を測ります。

9 吹田須恵器窯跡 NO.34

古墳時代終末期 (7 世紀初め) の須恵器窯跡です。天井の一部が残るなど全体的に保存状態が良いため、発掘調査後、紫金山公園内に移築・保存されています。

10 地蔵塚 (現佐井寺配水場)

小高い独立した丘陵上にあり、佐井寺に伝わる木造地蔵菩薩立像が掘り出されたという伝承や徳川家康が鷹狩りをした時に休憩したという伝承が残ります。 (西本安秀)



2-f 佐井寺伊射奈岐神社社号標石



5 愛宕神社境内



7 向かい坂の地蔵道標



8 佐井寺くりぬき水路 (内部)

たかしろ 高城遺跡の発掘調査



竪穴式建物跡（南から）

高城遺跡は吹田市高城町・昭和町にひろがる旧石器～古墳時代・平安時代・中世の遺跡で、今回住宅建設に伴い確認調査を実施しました。

調査区では、表土層（第1層）以下、灰褐色砂質土層（第2層）、灰色砂質土層（第3層）、濃灰色粘質土層（第4層）が水平に堆積し、黄色粘土層（第5層）に達する状況を確認しました。このうち、第5層上面をベースとして竪穴式建物1基、ピット6基を検出し、その竪穴式建物の床面からはピット5基、土坑1基、建物内を廻る溝が確認され、第3・4層からは弥生時代・古墳時代・平安時代・中世と考えられる土器の破片が、竪穴式建物内の堆積土等の遺構内からも弥生時代・古墳時代と考えられる土器の破片が多数出土しました。

今回の調査では、竪穴式建物全体を検出するまでには至りませんでした。建物の壁構造などから、外側の平面形状は隅丸方形と考えられます。南北方向の長さは5.68mを測り、遺構面から建物内の床面までの壁の高さは最大28cm残っていました。この建物内には、壁の内側に沿って溝が廻っていました。この溝は幅約21.5～43cm、床面からの深さ約4～21cmを測りましたが、北側と西側では外壁より少し内側に深さの異なる部分が検出されたことから、建替えがあったのか位置を少し変えて掘り直した可能性が考えられます。この溝からは弥生土器、古墳時代の土師器が出土しました。また、建物内からはピット5基を検出しました。明確ではありませんが、これらの中には古墳時代の土器を含むものもあり、この建物の柱を据え付けるための柱穴が含まれている可能性が考えられます。

今回の調査では、遺構はいずれも第5層上面で検出しました。竪穴式建物については出土遺物及び遺構の形状等から古墳時代に営まれたものと考えられ、当地一帯に古墳時代の集落が広がっている可能性が考えられます。（田中充徳）



建物跡から出土した古墳時代の土器

平成28年度特別企画「むかしのくらしと学校」

特別企画「むかしのくらしと学校」展を12月13日より開催しています。小学3年生社会科単元「くらしのうつりかわり」の学習に合わせた特別企画展です。内容は電気やガス、水道がまだ普及していなかった頃を想定したものです。今では懐かしいむかしの衣・食・住の貴重な道具や学校教材や時代を反映する写真などパネルにして展示しています。ちょ

っとむかしを体験できる10コーナーを設定しています。この特別企画展は博物館ボランティアのみなさんと子ども達に「わかりやすい」を目標に、内容を協議し、案内解説等のご協力を得て開催しています。土日祝日には、子ども向けのイベントを実施しています。ご家族でお楽しみ頂ければと思います。

(福田博)

関連イベント (◆親子・子ども体験講座◆)

「おひなさまを作って飾ろう」

日時：平成29年2月12日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：竹筒、和紙、木材等を使って作ります。

定員：午前、午後の部とも各15名

対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)

申込：1月31日(火) 必着

「大昔のアクセサリー～勾玉作り～」

日時：平成29年2月18日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：ろう石を削ったり磨いたりして大昔のアクセサリー勾玉を作ります。

定員：午前、午後の部とも各40名

対象：小学生・中学生・保護者

申込：2月7日(火) 必着

「ミニチュア銅鏡づくり」

日時：平成29年2月25日(土)

午前の部 10時～11時30分

午後の部 1時30分～3時

内容：五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1ミニチュアを鋳型でつくります

定員：午前、午後の部とも各10名

対象：小学3年生～中学生(小学生は保護者同伴)

申込：2月14日(火) 必着

「昔のあかりと火おこし体験」

日時：平成29年3月4日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：ろうそく、行燈、石油ランプ等、昔のあかりを学習し、火打石やまいぎり等の火おこしを体験します。

定員：午前、午後の部とも各20組

対象：小学生・中学生・保護者

申込：2月21日(火) 必着

「昔あそびとやさしいおもちゃ作り」

日時：平成29年3月11日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：昔ながらの遊び道具や牛乳パック等、身近な材料を使ったおもちゃ作りをします。

定員：午前、午後の部とも各30組

対象：5歳～中学生(小学生以下は保護者同伴)

申込：2月28日(火) 必着

■申込方法 はがき、またはFAXにて、講座名、希望の時間帯、郵便番号、住所、参加者全員(付き添い含む)の氏名、学年、電話番号を書いて博物館まで。申し込み多数の場合は、抽選となります。

吹田市立博物館だより第68号 平成28(2016)年12月28日発行 発行 吹田市立博物館
〒564-0001 吹田市岸部北4丁目1番1号 TEL06(6338)5500 FAX06(6338)9886 ホームページ <http://www.suita.ed.jp/hak/>

この冊子は、3,000部作成し、1部あたりの単価は23円です。